十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	55	実施計画番号	7		
事務事業名	市民参加による緑化の推進				
個別事業名	十和田市花壇ｺﾝｸｰﾙ			事業開始年度	昭和48年度
担当課名	都市整備建築課			事務の種類	自治事務
根拠法令等	緑と花のまちづくり推進条例		関連事務事業		
背景や経緯等	昭和47年十和田市条例第13号「十和田市緑と花のまちづくり条例」の制定に伴い、昭和48年度から事業開始した。				
事務事業の目的	花いっぱい運動を通じて、四季折々の花を沿道や公共施設等にあふれされることにより、市民の心の中に豊かな感性や温かい人情、そして自然にやさしい心や創造性の花を咲かせ、市民自らが美しい郷土づくりを推進するよう、広く市民に浸透させることを目的とする。				
実施状況	平成23年度十和田市事務事業評価市民検討委員会の提言を踏まえ、平成24年度以降の事業は凍結。				

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数（人）	1	1	0
	活動日数（日）	85	70	0
	人件費（千円）	3,060	2,520	0
正職員以外	従事者数（人）	13	0	0
	活動日数（日）	1	0	0
期間業務職員	人件費（千円）	116	0	0

【事業費の推移】

事業費合計（千円）	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	605	418	0
うち一般財源	605	418	0
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①		花壇コンクールの参加数			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
			件	87	70	0
	活動指標名②					
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
成果指標	成果指標名①		花壇コンクールの参加数			
	計算式等	単位		22年度	23年度	24年度
		件	目標値	100	80	
			実績値	87	70	
			達成度(%)	87%	88%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		22年度	23年度	24年度
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	55
計画No	7

【担当課による検証】

		ポイント	検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	2	存在意義の見直しの余地 2 / 4 「十和田市花壇コンクール」は、市民に個人の庭や道路などの公共施設の花植え美化運動として一定の事業効果をもたらしているが、優劣を付けないオープンガーデン事業の推進で代替できる。
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か（民間と競合していないか）	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1		
有効性	③	**活動指標から見る有効性** 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	2	成果向上の余地 4 / 6 花壇コンクールの参加者数は例年100件前後で推移してきたが、平成21年から実施を始めたオープンガーデン事業への移行等に伴って参加者が減少している。
	④	**成果指標から見る有効性** 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	C	0		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 花壇コンクール事業費の検討により、表彰、賞品等についてコスト削減を図る。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	2	受益者負担適正化の余地 2 / 4 参加者は個人、会社、商店、町内会等の団体など広く応募があるが参加者が固定化傾向にある。また、審査は専門的な知識を有する団体・個人に依頼して公平性を保持する。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
				現在の適性		11 / 20	改善の余地 9 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 11 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 9 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性 ⇒ 事務事業の統廃合を図る

方向性の理由

花壇ｺﾝｸｰﾙ事業を凍結し、ｺﾝﾃｽﾄ形式としない登録された庭をいつでも誰でも見ることができるｵｰﾌﾟﾝｶﾞｰﾃﾞﾝ事業により緑化推進を図る。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

互いの価値観を認め合い優劣を付けないオープンガーデン事業は、市民の皆様が丹精込めた花壇を公開してより多くの人との出会いや交流を通じ花壇づくりを一緒に楽しむ事により「市民参加の緑化の推進」の実現を目指し、花いっぱい運動の一環として実施し、花と緑のあるまちづくりをしたいという共通の理念のもと市民と行政が協働して取組み、花を通したまちづくりの定着・発展を図る。